

平成 22 年度 新学術領域研究（研究領域提案型） 審査結果の所見

<b>研究領域名</b>	翻訳後修飾によるシグナル伝達制御の分子基盤と疾患発症におけるその破綻
<b>領域代表者</b>	井上 純一郎（東京大学・医科学研究所・教授）
<b>研究期間</b>	平成 22 年度～平成 26 年度
<b>科学研究費補助金審査部会における所見</b>	本研究領域は、NF- $\kappa$ B、MAPK、Akt の 3 つの細胞内シグナル伝達経路を主な研究対象として掲げ、翻訳後修飾によるシグナル伝達の動的制御機構と疾患との関連を明らかにすることを目指しており、重要な研究課題である。また、数理モデルまで含めた意欲的な提案であると評価できる。分子生物学、構造生物学、数理科学など幅広い分野の実績豊富な研究者が集結し、それぞれがすぐれた解析系を確立しており、研究成果が期待できる。